

過去のほう賞（例）

No.	内 容
1	一人の下級生が、数人下級生にいじめを受けている場面に遭遇した。そこで、いじめていると思われる側の児童に、「ひどいことを言うてはいけない」と優しく伝えた。相手は上級生に諭されたためか、素直に聞き入れた。その後、残された下級生に優しく声をかけながら、一緒に帰宅した。
2	登校途中に、坂の下の方の茂みに自転車ごと転倒していた男性を発見した。男性は怪我をしており、自力で上がって来られない状態であった。すぐに友人と3人で男性の手をつかみ、引き上げようと試みたが、なかなか引き上げられずにいた。その際、通りがかりの男性がその現状に気づき、一緒に引き上げる形で助けることができた。その後、自転車も引き上げた。
3	放課後、姉妹で遊んでいると、外国人のような若い女性がフラフラしながら歩いており、途中座り込んでしまったりしていた。しばらくすると、その女性が倒れたので、近寄って「大丈夫ですか。」と声をかけ、持っていたお金を使って公衆電話で119番通報をした。電話で状況を話したが上手く伝わらず、近くを通りかかった大人に電話を代わってもらい、状況説明をしてもらった。倒れている女性のそばで救急車の到着を待ち、無事に女性が運ばれるまで見守った。
4	家に帰ろうとしたとき、道で高齢の男性がしゃがんでいるのを見かけた。持っていた水筒の水を飲ませてあげて、家が近いようだったので家まで送った。
5	登校班で登校中に、信号で転んでいた高齢の女性がいた。頭から血を出して動けなくなっていたので、声をかけて起き上がる手伝いをした。すぐ近くに女性の家があったので、玄関先まで送ってあげた。
6	18時半過ぎに迷子になりかけていた小学2年生を見かけた。声をかけると自宅の鍵を忘れて家に帰れないとのことであった。本人宅まで連れて行ったが家族が不在だったため、そのまま自宅に連れて行った。仕事上の母に電話で相談し、母が2年生の児童の家庭に直接連絡し、児童は家に帰ることができた。
7	登校している途中で低学年の児童の体調が悪くなり、登校することができなくなった。その際に登校班の班長として、近くの子ども110番の家に助けを求め、電話を借りて学校に連絡した。学校の先生からの指示により、他の児童は先に学校に向かわせ、本人のみその子に付き添って残った。その後、民生委員さんのご協力で児童は自宅に戻り、本人も登校した。この件以外にも、班長として低学年児童が困った際に手助けをしていることが多い。
8	公民館の児童室を利用していた下級生が片付けをしないまま帰ってしまい、職員が片付けようとしたところ、3名の児童が気持ちよく手伝った。
9	下校中に交差点において、横断歩道をゆっくり歩いて渡っていた高齢者を見つけ、このままでは信号が赤に変わってしまうと思い、3人で駆け寄って荷物を持ってあげるとともに、手を引いてあげて一緒に渡った。
10	登校中に転んだ別の登校班の1年生を見つけ、怪我をして歩くことが難しそうだったので、学校までおんぶして連れて来た（10分程度）。その後、保健室まで1年生を連れて行き、養護教諭に治療をお願いした。
11	車通りの多いゴミ捨て場に、幼児の兄弟が二人だけでゴミ捨てに来ていたのを見て、地域の方が心配し家まで一緒についていこうとしたところ、「僕が連れて行きます。」という意味を無言で合図し、家までの帰り道を付き添った。自分が車道側を歩き、幼児達の安全確保をしながら付き添う姿に地域の方が感動され、学校に連絡があった。
12	児童館へ来る途中、民家の飼い犬が倒れているのを見つけたが、家主は留守であった。二人は持参していたペットボトルの水を全て犬の水入れに注ぎ（200ml）、犬に飲ませた。犬は更に水を欲しがったため、自販機で1本のペットボトルの水を購入し、飲ませたり、犬の身体にかけたりした。犬の様子が心配だったため、翌日も訪問した。
13	ヘアドネーションの経験のある兄と母の影響を受けて、「自分にもできるかな。」の思いで、幼稚園年少の頃から髪を伸ばし続けた。約3年間かかり、病気で苦しむ子どもたちのために、47cmの髪の毛を、NPOの団体を通じて寄附をした。
14	毎朝、学校周りのゴミ拾いをしている教頭の姿を見て、自分も役に立ちたいと思った。夏休みに改修していただいた綺麗な校庭の運動場を大切にしたいという思いから、自主的に1人で暑い中30分ほど、レジ袋を持って運動場のゴミ拾いを行った。
15	国語の時間に海洋汚染を学んで、町の中からゴミが無くなれば、海洋汚染も防げるとの想いで、夏休みの20日間、午前7時半頃から1時間半程度自主的に自宅の尾尻から秦野駅周辺の約1.2キロを往復してゴミ拾いをしているとのこと。1日あたりスーパーの袋2個分のゴミを拾ったとのことだった。